

※DF 特太ゴシック体は学力向上に関わる内容

※下線部は表現する能力の向上に関わる内容

課題分析	授業改善推進プラン
<p>1. 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 「漢字ノート」で中学2年の新出漢字の学習、学年での取り組みとしての「漢字コンテスト」(月1回)で漢字検定4級～3級に示された漢字の学習を行い、基礎的な漢字・語彙に関する知識技能の定着を図る。漢字ノートには積極的に取り組んでいるが、広い範囲となる「漢字コンテスト」においては、得点できない生徒が多かったが、第1学期に行ったコンテストでは、合格者が多くなった。 言語事項、歴史的仮名遣いなどの1年次に学習した言語知識の習熟についてはまた課題がある。語彙力、言語に対する興味関心は高いが、実際にその知識を自分の表現として活用することには課題が見られる。 <p>2. 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文、読み取ったことに対して自分の考えを書くなど、「書くこと」自体には積極的に取り組むことができる。また、「発想」する力、「課題設定と取材」する力は高い。自分の考えを短く端的に言葉で伝えることはできるが、論証の形式に合わせた文章として構成することには苦手意識もある。書くことで自分の考えや学びを表現する機会が多くなっているため、それを利用して思考力・表現力の伸長に繋げたい。 文学的文章の指導では、登場人物の言動を地の文とセリフに分けて考え、それぞれどのような意味があるのか、またそこに表れたものの見方や考え方をとらえたりすることを繰り返し行った。現代が舞台になっている作品ではおおむね捉えることができているが、自分たちと違う世代の話になるととらえることができている生徒とそうでない生徒の差が顕著になるため、観点を提示して読む指導を継続する必要がある。 説明的文章の指導では、書くことの指導と連携し、読むことの方でも「主張—理由付け—根拠」を分けながら読み取りを行った。構成については理解できている生徒が多いが、理由付けと根拠の違いはまだ理解できていない生徒が多い。 古典に関しては、マンガ教材などを用いて、内容理解をより身近にできるよう工夫した。また知識・技能の指導に合わせ、音読を中心に指導した結果、古典に表れたものの見方や考え方をとらえることができる生徒が多かった。 <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組める生徒が多く、発言も活発である。ただし、よく考えずにその場の雰囲気や発言したり、突発的な思い付きで発言したりといったことも散見される。さらに熟考しているが発言しないあるいはできない生徒がいる点も課題点である。 板書・プリントを用いて、その時間にどのようなことを学習したか後になって振り返ることができている。 時間内での達成ができないこと、課題把握に時間がかかることもある。提出物、授業課題など、未提出・未達成の生徒は決まってきており、今後の授業における考慮・支援が必要である。 	<p>※今年度は文京区版学校感染症対策ガイドライン(新型コロナウイルス感染症)に則り、授業中のグループや少人数による話し合い・学び合いなどの活動を1授業あたり1回にとどめマスクの着用等飛沫防止に配慮したうえでやっている。</p> <p>1. 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週の漢字テストは今後も継続する。自ら学習に向かうことができない生徒には個別に課題を出すなど学習習慣を身に付けることができるよう指導をする。ただし、個別の課題については希望者のみに配布する形をとるなどあくまで自分自身で選択して学習する習慣を身に付けることができるよう配慮して指導を行う。 古典の学習については、フラッシュカードを用いて、単語の意味や文法事項などをくりかえし指導する方法がかなり効果的であったため、今後も継続する。また、ビートに乗せてリズム音読をすることも有効であったためこれも継続する。ただし、すべての音読をリズム音読で終わらせてしまうと古典特有の情緒を味わえないため、配分を見直し実施していく。 <p>2. 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を提示してプレゼンテーションを行う際、調べた事実のみを述べるのではなく、なぜそれが魅力的だと思うのか、なぜ良いと考えるのか、といった理由付けを必ずつけて行うよう繰り返し指導を行う。 自分たちで課題を設定し、どのようにしたら効果的に伝わるか、または聴衆に理解させることができるか、工夫すべき点を話し合うことができるような課題設定を継続する。 話し合いや発表活動の後、自分の発表がどうであったかを自己評価するとともに教員やクラスメイトからのフィードバックを受け、次の発表に生かすことができるような授業形態を工夫する。 「序論—本論—結論」の構成に則って文章を書くことを徹底するよう今後も指導を継続する。 「主張—理由付け—根拠」の違いを明確にとらえ、自分の主張に対してなぜそのような主張をするのか、そのように考える根拠は何かをそれぞれ明確にしながらか文章を書くことができるよう指導を継続する。 <p>描写や表現から人物の心情をとらえる経験を多く積ませ、正確に読み取ることや心情を把握するスキルを高めていくことに重点を置いて指導を行っていく。文学的文章に表れたものの見方や考え方をとらえ、自分の言葉で表現する活動を積み、次年度に作品の価値を論ずる批評的な活動につながるよう指導を継続する。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標および本時の目標と評価が一体となった授業を目指し、単元の目標を授業中に常に提示する。また毎時の目標を必ず提示して授業を行う 振り返りの時間を設け、目標と学習内容の確認を毎時間できるように工夫していく。 発言が活発である点を伸ばしつつ、よく考えて発言したり、熟考したうえでの発言をしたりできるよう指導していく。 板書、プリントについては、設定読みの時間なども含め、後から見返した際にどのような学習をしたか復習できるように工夫する。